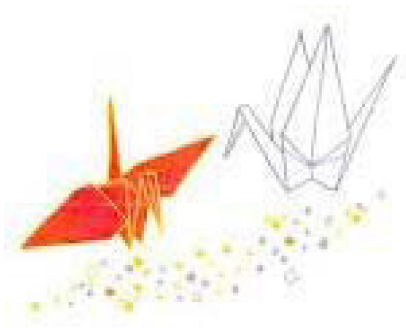


平成23年度

平和大使長崎派遣事業報告書

# 平和の祈りを この鶴に



松 戸 市

## 目 次

平和大使長崎派遣事業にあたって	1
世界平和都市宣言	2
平和大使長崎派遣募集	3
平和大使名簿	5
平和大使長崎派遣行程	6
平和大使長崎派遣報告会	13
平和大使の報告	15
「平和の輪を」	佐藤 萌加・16
「あの夏の日に起きたこと」	発地 空介・17
「受け継がなければならない平和への思い」	岸 健太・18
「戦争」	宗像 未来・20
「私は伝える」	天野 七海・22
「長崎に行って」	紙崎 莉緒・24
「長崎に行って」	井山 祥樹・26
「平和大使として学んだこと」	加藤 円来・27
「平和への一歩」	鈴木 理花子・29
「長崎平和大使として学んだこと」	坂本 実優・31
「命や身近な物の大切さ」	谷口 茉奈美・33
「私が感じたこと」	對馬 あい子・35
「平和大使長崎派遣」	山田 真平・36
「平和大使長崎派遣」	新垣 竣太・38
「長崎で学んだこと」	水谷 春来・40
「長崎派遣で学んだこと」	長谷川 結友・42
「あの一瞬をもう二度と」	板倉 日向子・43
「平和とは何か」	張 敏・45
「平和への祈り」	平野 瑞帆・46
平和大使長崎派遣事業を終えて（ 随員職員 ）	47
長崎平和宣言（ 平成23年8月9日 ）	54
歴代平和大使名簿	59

## ～ 平和大使長崎派遣にあたって ～

松戸市は、昭和60年3月に「世界平和都市宣言」を行い、これまでさまざまな平和事業を実施して参りました。

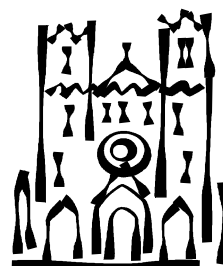
8月9日、6日の広島に続き被爆66周年の原爆犠牲者慰霊平和祈念式典が開かれました。今年の式典には、初めて米国政府代表として在日米大使館の主席公使が出席し、さらに式典に参列した諸外国の政府関係者は核保有国を含む、過去最多の44カ国となり、核兵器廃絶を模索する世界的な流れが出来つつあることが感じられます。

そして、長崎市長は平和記念式典の平和宣言の中で「『ノーモア・ヒバクシャ』を訴えてきた被爆国の私たちが、どうして再び放射線の恐怖に脅えることになってしまったのでしょうか」と東日本大震災での原発事故に触れました。今後は核兵器の廃絶にとどまるだけではなく、核の利用の是非についても問いかけるものとなりました。

近年、式典に参列できる被爆者の方も年々少なくなった状況の中、当時の様子を知る術が少なくなっていることにより、被爆体験や戦争体験の風化が懸念されるところです。私達は、直接戦争体験を聞ける最後の世代として真実をしっかりと引き継ぎ、未来を担う若い世代に継承することが、今、課せられた使命であると認識しています。

併せて、世界平和都市宣言の理念である世界の恒久平和を念願することからも、世界各地で続く紛争に対しても目を向け、広い視野に立った施策が重要であると考えております。

平和大使長崎派遣事業を通して、松戸市の次代を担う若い世代が、被爆地へ行くことにより被爆の実相や平和の尊さを学習し、また、学んだことや感じたことを周りの人に語り伝えていくことを期待して、本事業を実施してまいりたいと考えています。



## ～ 世界平和都市宣言 ～

我が国は、世界で唯一の被爆国である。

何人も平和を愛し平和への努力を続け、常に平和に暮らせるよう均しく希求しているところである。

しかし、現下の国際情勢は、緊張化の方向に進み市民に不安感を与えている。

かかる状況に鑑み、松戸市は日本国憲法の基本理念である平和精神にのっとり、平和の維持に努め、併せて非核三原則を遵守し、あらゆる核兵器の廃絶と世界の恒久平和の達成を念願し、世界平和都市をここに宣言する。

昭和60年3月4日 松戸市

### ・ World Peace City Declaration

[英語]

Mach 4, 1985

In the past, our country has experienced the sadness from an Atom Bomb explosion.

This makes our nation determined that history will not be repeated.

All of us yearn for peace, continue making an effort to create peace, and wish that we all can live in a peaceful environment in the future.

However, presently around the world, international affairs are becoming increasingly tense and cause our citizens great concern.

In response to the present turmoil across the world, Matsudo City now more than ever, willfully observe the peaceful spirit that is the fundamental philosophy of the Japanese Constitution.

We will endeavor to maintain nation wide peace, comply with the three anti-nuclear principles and possess the desire to abolish all nuclear weapons and the accomplishment of permanent peace throughout the world.

Therefore, we now declare our city as the “World Peace City”.

City of Matsudo

### ・ 世界平和都市宣言

[中国語]

日本是世界唯一的核弹受难国。

我们热爱和平、为和平而奋斗、切望一个和平的生活环境。

但是、当今国际关系仍然紧张、市民深感忧虑。面对动荡的世界、松戸市郑重宣告本市将遵循日本国宪法基本理念、

高扬和平精神、为保障和平而尽力、坚持非核三原则、为在地球上废除所有核武器、建立一个永久和平的世界而积极贡献力量。



## ～ 平和大使長崎派遣募集 ～

### 世界平和都市宣言事業 第4回「平和大使長崎派遣」大使募集

#### <募集要項>



・松戸市では、戦争や核兵器の無い平和な未来を築こうという心を育んでもらうため、長崎市で開催される「青少年ピースフォーラム」へ参加する中学生を募集します。

#### 【 平和大使とは 】

・「平和大使」とは、松戸市の世界平和都市宣言により、戦争や核兵器の悲惨さ、平和の尊さについて事前、派遣、事後研修を通じて知識を深め、そこで学んだことや感じたことを周りの人に語り伝えていくことが期待される人です。

#### <対象>

・市内中学校に在学する生徒で、戦争や核兵器の悲惨さ、平和の尊さについて学ぶ意欲があり、事前、派遣、事後研修に参加できる人を対象とします。

#### <定員>

・22名（応募者多数の場合は、抽選とします。）

引率：松戸市役所 職員3名 ・ 添乗員1名

#### <費用>

・市の負担：長崎への往復航空運賃、宿泊代、長崎での移動バス電車運賃、

8/7の夕食、8/8、8/9の3食、8/10の朝食、昼食。

・自己負担：事前、事後研修の会場（市内）までの交通費、8/7の昼食など

#### <申込方法>

・参加申込用紙に必要事項を記入して、任意の封筒に入れ学校に提出してください。

#### <提出期限>

・平成23年5月26日（木）

## ＜研修日程(予定)＞

### 1 事前研修

平和についてのオリエンテーションを行います。(自主学習)

7月10日(日) 結団式及び第1回オリエンテーション  
青少年ピースフォーラム等の内容説明。

7月24日(日) 第2回オリエンテーション  
戦争、原爆、平和等について自主学習します。

7月31日(日) 第3回オリエンテーション  
自主学習とスケジュールの確認。

### 2 派遣研修

(1) 場所 : 長崎市

(2) 期間 : 8月7日(日)～8月10日(水) 3泊4日

(3) 内容 : 青少年ピースフォーラムへの参加等

＜青少年ピースフォーラム＞

8月9日の平和祈念式典にあわせて、全国の自治体が派遣する青少年と長崎市の青少年とが一緒に被爆の実相や平和の尊さを学習し、交流を深めることで平和意識の高揚を図ることを目的として長崎市が実施しています。主な内容として、平和祈念式典への参列、被爆体験講話、平和関連施設見学、平和学習会への参加を予定しております。

(4) 「平和大使長崎派遣」日程表

8/7(日)	松戸駅 → 羽田空港 → 長崎空港 → 長崎市内ホテル (自主学習)	
8/8(月)	午前	自主学習
	14:00～15:00	開会行事(被爆体験講話など) ＜場所:平和会館ホール＞
	15:10～17:00	参加型平和学習(屋外) ＜場所:原爆落下中心地碑、浦上天主堂など＞
8/9(火)	午前	平和祈念式典への参列 ＜場所:平和公園＞
	13:30～15:30	参加型平和学習(屋内) ＜場所:平和会館ホールまたは原爆資料館＞
8/10(水)	ホテル → 長崎空港 → 羽田空港 → 市役所帰庁 → 市役所解散	

### 3 事後研修

研修の報告会を行うとともに、研修で学んだ成果を生かし、戦争や核兵器の悲惨さや平和の大切さを伝えるため、活動報告書の作成などを行います。

## ～ 平和大使名簿 ～

さとう 佐藤	もえか 萌加	(第一中学校	2 学年)
ほっち 発地	こうすけ 空介	(第三中学校	1 学年)
きし 岸	けんた 健太	(第四中学校	1 学年)
むねかた 宗像	みらい 未来	(第五中学校	1 学年)
あまの 天野	ななみ 七海	(第六中学校	1 学年)
かみさき 紙崎	り お 莉緒	(小金中学校	2 学年)
いやま 井山	よしき 祥樹	(常盤平中学校	2 学年)
かとう 加藤	つぶら 円来	(栗ヶ沢中学校	1 学年)
すすき 鈴木	り か こ 理花子	(六実中学校	3 学年)
さかもと 坂本	み ゆ 実優	(小金南中学校	1 学年)
たにぐち 谷口	ま な み 茉奈美	(古ヶ崎中学校	1 学年)
つしま 對馬	あい子 あい子	(牧野原中学校	2 学年)
やまだ 山田	しんべい 真平	(河原塚中学校	2 学年)
しんがき 新垣	しゅんた 竣太	(新松戸南中学校	3 学年)
みすたに 水谷	はる き 春来	(金ヶ作中学校	2 学年)
は せ が わ 長谷川	ゆ う 結友	(旭町中学校	3 学年)
いたくら 板倉	ひ な こ 日向子	(小金北中学校	1 学年)
ちょう 張	とし 敏	(聖徳大学附属女子中学校	2 学年)
ひらの 平野	みすほ 瑞帆	(専修大学松戸中学校	2 学年)

## ～ 平和大使長崎派遣行程 ～

7月10日（日）

### ◆ 結団式・第1回オリエンテーション

各学校から選ばれた平和大使19名に市長から任命書が交付され、大使としての抱負を発表しました。



〈任命書交付〉



〈平和大使長崎派遣結団式〉

7月24日（日）

### ◆ 第2回オリエンテーション

長崎市の平和学習資料集を基に事前に学習し、感想、意見交換を行いました。

そして、長崎派遣の自主学習で行きたい場所をみんなで話し合いました。



〈事前学習〉

7月31日（日）

### ◆ 第3回オリエンテーション

原爆資料館へ千羽鶴を献呈するため、折り鶴を作成しました。

長崎派遣まで一週間となり、最終確認を行いました。



〈折り鶴作成〉

8月7日（日）

◆ 11:00 長崎へ出発

11時松戸駅に集合して、保護者、先生、関係者に見送られ出発しました。

13時15分発スカイネットアジア航空35便で、羽田空港から長崎空港へ向かいました。

15時10分長崎空港へ到着。バスで宿泊先のホテルへ向かいました。

16時30分ホテルに到着。ホテル付近を散策し水辺の森公園とオランダ坂に行きました。



〈羽田空港〉



〈オランダ坂〉

◆ 19:00 千羽鶴作成（ホテル会議室）

原爆資料館へ千羽鶴を献呈するため、大使が作成した折り鶴と市民の方々から頂いた折り鶴を使い千羽鶴を作成しました。



〈千羽鶴作成〉



〈千羽鶴完成〉



8月8日（月）

◆ 8:30 自主学習（長崎歴史文化博物館）

朝8時にホテルを出発し路面電車で長崎歴史文化博物館へ向いました。

長崎歴史文化博物館では、大航海時代から近世、近代までの長崎の海外交流に関する歴史資料や美術工芸品などの貴重な資料を説明員の方がわかりやすく説明してくださいました。



〈長崎歴史文化博物館見学〉

◆ 10:00 自主学習（立山防空壕）

長崎歴史文化博物館より徒歩で立山防空壕へ向いました。

立山防空壕は、長崎防空本部があった防空壕です。その役割を詳しく説明して頂き、防空壕内を見学しました。



〈立山防空壕見学〉



〈立山防空壕内〉

### ◆ 13:00 原爆資料館到着

青少年ピースフォーラムに参加するために、平和会館へ向かう途中、完成した千羽鶴と市民より頂いた千羽鶴を持参して「平和の祈りをこの鶴に」という想いとともにはだれいこ原爆資料館へ献呈しました。



〈千羽鶴献呈〉



〈松戸市の千羽鶴〉

### ◆ 14:00 青少年ピースフォーラムに参加

平和会館ホールで、全国から27団体が参加し、青少年ピースフォーラム開会行事に続き、被爆体験講話を講話者の羽田麗子<sup>はだれいこ</sup>さんから聞きました。

これから、コースに分かれて参加型の学習が始まります。



〈長崎市長の挨拶〉



〈コース別学習〉



〈講話者 羽田 麗子 さん〉



### ◆ 15:10 被爆建造物等のフィールドワーク（平和公園コース）出発

今年は雨が降ったり止んだりする中、フィールドワークへ出発しました。

長崎市青少年ピースボランティア（高校生・大学生など）の方が、原爆落下中心地碑や浦上天主堂遺壁など当時の事を親切に説明、案内してくれました。



〈原爆落下中心地碑〉



〈浦上天主堂遺壁〉



〈青少年ピースフォーラムボランティアさんと記念撮影〉

### ◆ 17:00 自主学習（原爆資料館）

原爆資料館を見学。資料館では原爆投下当時の長崎の街の風景や、展示物など貴重な資料がたくさんあります。大使たちは、様々な思いを胸に観覧しました。



〈原爆資料館内〉

### ◆ 19:00 ミーティング（ホテルにて）

明日に向け、日程の確認を行いました。



8月9日（火）

◆ 9:00 平和祈念式典参列（平和公園内）

8時30分原爆犠牲者慰霊平和祈念式典へ参列する  
ために平和公園へ出発！

11時2分長崎の鐘が響き渡る中、原爆犠牲者の  
ご冥福と世界の恒久平和を祈り、黙とうを  
捧げました。



〈平和祈念像〉



〈長崎の鐘〉

被爆66周年  
長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典

式 次 第

- 10時35分 被爆者合唱
- 10時40分 開式  
原爆死没者名奉安
- 42分 式辞（長崎市議会議長）
- 46分 献水
- 48分 献花
- 11時02分 黙とう
- 03分 平和宣言（長崎市長）
- 13分 平和への誓い
- 18分 児童合唱
- 23分 来賓挨拶
- 38分 合唱 千羽鶴
- 43分 閉式



〈黙とう〉



### ◆ 13:30 ピースフォーラム参加

ピースフォーラムも二日目を迎え、コース別の参加型学習へ参加し、昨日のフィールドワークで学んだ被爆の実相について再確認しました。

全国から参加された青少年のみなさんとグループを作り、平和の尊さについて意見交換を行いました。また、身近な平和についても考えました。

全国の青少年と交流することができ、貴重な体験をすることができました。



〈意見交換〉



〈各班のまとめ〉



〈発表〉



〈グループの記念撮影〉



〈ピースフォーラム終了。記念撮影〉

### ◆ 16:30 自由学習

ピースフォーラムも終了！！自由時間です。

制服を着替え大浦天主堂へ！

夕食を済ませてから夜のグラバー園を散策しました。夜景がとても綺麗でした。



〈大浦天主堂〉

8月10日（水）

◆ 8:00 松戸へ出発

8時ホテルを出発。長崎空港へ向かいました。

10時35分発スカイネットアジア航空34便で羽田空港へ向かいました。

12時15分羽田空港着。バスで市役所へ向かいました。



〈羽田空港到着〉

◆ 15:00 松戸市役所到着

3泊4日の日程で長崎へ行って参りました。みんな元気で帰ってくることができました。

～ 平和大使長崎派遣報告会 ～

8月10日（水）新館7階会議室にて

◆ 15:30 帰庁報告会

松戸市役所で、市長に長崎で体験してきたことを大使一人ひとりが報告しました。



〈報告発表〉



〈帰庁報告会〉





本郷谷市長(左)に長崎市訪問の帰庁報告をする平和大使たち

## 平和の尊さ、思い新たに

### 生徒19人が帰庁報告

松戸市の長崎派遣事業

子どもたちに平和の尊さを学んでもらう松戸市の平和大使長崎派遣事業で、被爆地の長崎市を訪れた中学生19人が10日、松戸市役所で帰庁報告会を開いた。

同日、長崎市から帰ってきたばかりの生徒たちは「原爆資料館の写真を見て、戦争は怖いとあらためて学びました」「戦争は二度と起こしてはならないと思いました」などと現地で抱いた感想を語った。

同事業は今年で4回目、参加対象は市内の中学生で今回は19校から48人の応募があった。その中から抽選で選ばれた19人が7日から

10日までの3泊4日のスケジュールで長崎市に派遣された。

平和大使らは現地で被爆体験者の講話を聞いたり、全国各地の生徒や学生たちが集まり交流を深める青少年ピースフォーラムに参加したりした。9日に行われ

た長崎平和祈念式典にも参列した。

帰庁した生徒らは一様に引き締まった表情で、本郷谷健次市長に「被爆体験者の講話は生々しく、耳をふさぎたくなった」「相手をふさぎたくなった」「自分がかかっている姿を見て、自分がいかに幸せかと思っ

いと思いました」などと、現地で見聞したことを報告した。平和大使のリーダーとして参加した市立新郷谷健次市長に「被爆体験者の講話は生々しく、耳をふさぎたくなった」「相手をふさぎたくなった」「自分がかかっている姿を見て、自分がいかに幸せかと思っ

# 平和大使の報告



## 『平和の輪を』

第一中学校 2年 佐藤 萌加

昨年から行きたいと思っていた平和大使長崎派遣に、今年、念願叶って参加することができました。

一日目、路面電車の中から見た街は、正直、原爆によってたくさんの命が奪われた街という事を忘れてしまう程、美しい街でした。しかし、その後に私の見たものや聞いたものは、大きな衝撃を受けるものばかりでした。

平和公園では、原爆投下当時の地層を見ました。割れた茶碗、溶けたビン、その当時の人達にも、投下数秒前までは私達と何も変わらない時間が流れていたんだとはっと気付きました。

平和祈念式典の一分間の黙とうでは、テレビで見るのとは違い、あの場所に立った人にしかわからないものがありました。「黙とう」と目を閉じると、サイレンの響きの中に、たくさんの人々の悲しみの顔や声、赤い炎、そんなものがたくさん詰まっている気がしました。

しかし、今、世界にはたくさんの核兵器を保有している国があります。六十六年前、二つの核兵器で二つの街を破壊したよりも、もっと威力の強い兵器です。あれほど大きな被害を出しているのにも関わらず保有しているというのは、多くの人の思いや努力を無駄にしているのと同じことです。核兵器を使い、力で解決しても、何も良いことはありません。

みんなが笑顔でいられることや、本当の平和について世界の人々が考えれば、きっとみんなが暮らしやすい世界になると思います。

私もこの体験を話し、広めて、平和の輪を広げていきたいと思います。

いつか、世界が一つの平和の輪で結ばれますように・・・。

## 『あの夏の日に起きたこと』

第三中学校 1年 発地 空介

僕は、三泊四日で平和大使として長崎へ行きました。そこでは普段では体験できないことを体験しました。

一つは、原爆投下当時の地層や原爆の爆風や熱線に耐えた建物を見学したことで、当時の地層には、お茶わんやビンなどが埋まっていて、ここに人が住んでいたのだと考えると悲しくなってきました。そして、原爆投下当時の建物を見学したときは、あらためて原爆のすさまじさを知りました。

二つ目は長崎原爆資料館を見学したことで、資料館にあった展示物には熱線でドロドロに溶けたガラスや壊れかけた石像があったり、曲がってしまった鉄筋などがあり驚きました。しかし、その中でも驚いたのは爆風で飛ばされてきたガラスの破片が突き刺さったまま成長した木や、熱線によって皮膚が焼けただれてズルズルとはがれ落ちた人の写真でした。その写真を見たときは本当に驚きました。

三つ目は核弾頭保有国がまだあることで、アメリカやロシア、そして世界中には2万2千発を超える核兵器があるといわれていると学ぶ事ができました。

四つ目は被爆者の方の被爆体験講話を聞いたことです。長崎に落とされた原子爆弾「ファットマン」、この一発で長崎は一瞬にして何もかもが無くなり、七万三千八百八十四人の人が亡くなりました。

僕は長崎への派遣で原爆の様々なことを学び、思った事があります。もう二度と原爆が使われるようなことが起きてはならない。ぼくはあの夏の日に起きたことと、原爆が使われたこと、そして戦争は二度と起きてはいけないことを多くの人に伝えていきたいです。

## 『受け継がなければならない平和への思い』

第四中学校 1年 岸 健太

僕が今回、長崎に行きたいと思ったのは、祖父が戦争体験者で「戦争のことを知るには見るのが一番だ。」と言い、広島に連れて行ってくれたことがあったからでした。しかし、まだ四才だったので、その時のことは何も覚えていません。今回は戦争や原爆の事を知る良い機会だと思いました。

僕が今回、一番印象に残ったのは羽田さんの被爆体験講話でした。羽田さんは、ご自分の被爆体験を僕達に話して下さると共に「二度と戦争のない世の中をつくるために守ってほしい三つの事がある。」といわれました。

一つ目は、「一人一人の命は世界に一つしかないものだから大切にすること。」

二つ目は、「差別は絶対にしないこと。」

三つ目は、「何か問題が起こったら、しっかり話し合いで解決すること。どれだけ時間がかかっても、誰かに助けを借りてもいいからしっかり話し合いで解決する。」この三つを一人一人が心掛ければ戦争はなくなるのではないか、そんな世の中を実現してほしいと強く願っていらっしゃいました。

終戦から六十六年が経ち羽田さんのように被爆体験を語って下さる方は少なくなっているそうですが、僕は生の声を聞くという貴重な体験ができ、羽田さんがおっしゃっていた三つの事を実行していき、「戦争や核兵器のない平和な未来を築くこと」を実現していきたいです。

この夏、平和大使として長崎に行ったことで、今まで何気なく過ごしていた日常が平和に満ちあふれていたことに気付きました。

この平和な世の中を続けるためには、僕達が今回学んだ戦争や原爆の恐ろしさを



身近な人に一人でも多く伝えることだと思います。そして、二度と戦争が起きることのない世の中にしていきたいです。

それが、悲惨な戦争を体験した僕の祖父の願いでもあると思います。

## 『戦争』

### 第五中学校 1年 宗像 未来

今から、六十六年前の八月九日。長崎に大きな原子爆弾が落とされました。

この原子爆弾が落とされて、長崎ではたくさんの尊い命を奪われてしまっただけでなく、多くの被害者をつくってしまう結果になってしまいました。

今もたくさんの被爆者の方々は色々な病気に悩まされています。

私がそもそも平和大使長崎派遣に応募した理由は、「自分が学びたいから」、「たくさんの人に伝えたい」という気持ちがあったからでした。特に、「たくさんの人に伝えたい」というのは、私たちより小さい子に、戦争の恐さ、悲惨さを知ってもらいたい、という意味を含めました。

私が、小学校高学年の時、低学年の女の子に、戦争について尋ねた事がありました。私はつい知っているものだと思っていたので、女の子の返事に戸惑ってしまいました。

女の子は、「戦争って何?」と、真顔で答えたのです。

私は、この時、日本の戦争の歴史がなくなってしまったのでは?と、本気で思っていました。しかし、日本に戦争があったことは事実であるし、その時に、たくさんの尊い命を奪っていったのも事実です。

そこで、考えてみてください。

私たちは、今、とても平和に暮らしています。食べ物に困ることもないし、飲み物も飲みたい時に飲むことが出来ます。けれど、戦争中は、そんなにあまくありませんでした。食べ物は配給制、飲み物も今とは違い、炭酸や甘いジュースは飲むことが出来ませんでした。今考えてみたらどうでしょうか?このことを初めて知った

時、私は食に感謝しました。

私がここまで考える事が出来たのは、小学校高学年の時のあの女の子のおかげだと思います。このように考えることができ、今回の平和大使長崎派遣の応募につながったのかもしれません。

今回の長崎派遣では、たくさんのことを学ぶことが出来ました。特に被爆者体験講話でのお話は、とても生々しくて、忘れる事が出来ませんでした。その他にも、戦争の恐さ、悲惨さ、そして、友情についても学ぶことが出来ました。私は、今回とても良い経験をすることが出来ました。

しかし、私たちには、平和大使として、伝えていかななくてはいけないことがあります。

私は、そのためにも、たくさんの人々に戦争について伝えていき、たくさんの人々に戦争の恐さ、悲惨さについて理解してもらいたいです。

一日でも早く、長崎市の願いが叶いますように……。そして、一日でも早く、世界から、核兵器が無くなり、全世界の人々が、たのしく平和に暮らしていけますように……。

## 『私は伝える』

### 第六中学校 1年 天野 七海

「私が今できることは、一つ。」

原爆の被爆者は、平均年齢が七十六歳を超え、語り継ぐ人が年々減ってきています。今、若い世代の私ができることは、原爆の恐ろしさをたくさんの人々に伝え、この世に核兵器を無くすことです。

私は、松戸市の平和大使として、四日間、長崎へ派遣されました。なぜ私が、平和大使に応募したのかというと、原爆とはどういうものなのか、なぜ日本に落とされたのか、核兵器を使っている国に原爆の恐ろしさをわかってもらいたい、この三つの思いが応募するきっかけになりました。

私は、長崎に行く前は、戦争のことを軽く考えていましたが、今は、違います。

長崎の町の景色を見ていると、原爆の落とされたあとなどない、きれいな町でした。けれど、町を歩いていると、ブロックの一つひとつの色が違うことに私は、驚きました。原爆で、ブロックが焼けたあとでした。

私は、戦争は、もう二度と起きてはいけないものだとし長崎に行って確信しました。

六十六年前の八月九日十一時二分、毎日ふつうに生活していた人々が、たった一個の原爆が人々を苦しめ、命を奪いました。すごく辛かったと思います。

「当たり前なのが当たり前でできる幸せ」ととても大事なことです。平和だからできること。当たり前でできることに感謝して生活していきたいと思います。

みなさんも考えて下さい。空から、人々の命を一瞬に奪う原爆が落ちてきたらどうしますか？私だったらこわくて体が動かないと思います。今も想像するだけで、鳥肌がたちます。原爆は、この世にいない武器です。一瞬にして町を奪い、命を

奪い、未来を奪い、夢を奪い、良いことは何也没有せん。

六十六年たっても原爆の悲しみは、消えませんが、この世から核兵器を無くすことはできます。いつどこで何のために、使うか分らない核兵器がこの平和な空に落ちることを考えたくありません。

私は、伝える。核兵器はこの世にいらぬ武器だ！！

## 『長崎に行って』

小金中学校 2年 紙崎 莉緒

私は、初めて長崎に行き、一生忘れることのできない大切なことをたくさん学びました。

一つ目は、被爆体験講話です。お話をして下さった羽田さんのお話はとても悲しいものでした。羽田さんの立場が私だと思うと涙がこぼれそうでした。きっと、思い出すのはつらいと思います。しかし、羽田さんは自分の体験を話し、伝えることが仕事だとおっしゃっていました。だから、私も話を聞くことができた一人として周りの人に語り継ぐことが大切だと改めて思いました。お話の最後に、命は大切にする、絶対に差別はしない、問題は話し合いで解決する、この三つを守ってくださいとおっしゃっていました。もし、この三つのうち一つでも出来ていなかったら、平和にはならないと思います。なので、この三つを守って、生きていきたいと思います。

二つ目に学んだことは、原爆が落ちたことで起こった、爆風、熱線、放射能のこの三つです。爆風で浦上天主堂の一部がずれていました。建物まで壊す爆風を、人間が受けたと考えると、とても想像できませんでした。熱線による被害では、三千度から四千度の熱が襲いかかりました。ビンは溶けて変形していて、人は大火傷を負い、皮膚は垂れ下がっていました。もう一つの被害は放射能でした。放射能は目には見えません。感じることもできません。しかし、体への影響はとても大きく、今でも苦しんでいる方がいます。さらに、今年三月十一日におきた東日本大震災で福島第一原子力発電所が被災したことにより、日本は放射能に脅かされています。日本はこの問題としっかりと向き合い、六十六年前のような被爆がこれ以上増えな

いようにしていくべきだと思います。

今も、核兵器をたくさんの国が保有しています。また同じ苦しみを繰り返さないためにも、核兵器が無くなることを心から願っています。

最後に、このような貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

## 『長崎に行って』

常盤平中学校 2年 井山 祥樹

ぼくは、8月7日から10日の間長崎に行きました。その長崎で心に残ったことが3つあります。

一つ目は長崎の街です。長崎の街はきれいでびっくりしました。この街に本当に原爆が落ちたのかと思いました。ほかの街と全く変わらないきれいな街でした。

二つ目は羽田さんの話です。羽田さんの話は生々しく耳をふさぎたくなりました。羽田さんは思い出したくない思い出をぼくたちのために話をしてくれました。ぼくはこの経験を多くの人に伝えていきたいです。

三つ目は原爆資料館です。資料館では、血だらけの人の写真や黒こげになった人の写真、11時2分をさしたまま止まっている時計などを見ました。恐くて声も出ませんでした。

また、ファットマンの立体模型を見たときはびっくりしました。こんなに大きいのかと思いました。資料館を見学し終わったとき原爆の恐怖がこみ上げてきました。

長崎でいろいろなことを学びました。平和祈念式典で、11時2分、黙とうをしている時、被爆して亡くなってしまった方々の声が聞こえてきました。「もう戦争なんてしないで。」「もう二度と原爆なんて落とさないで。」この人たちの声を無視してはいけない、今自分たちができること、それはできるだけ多くの人に平和を伝えること、それが今の自分たちにできることだと思います。長崎を最後の被爆地とするために自分にできることをしっかりやる。それが平和への第一歩だと思います。

最後にこんなに貴重な経験をさせて下さった松戸市役所の方々、松戸市民の方々、心から感謝しています。



## 『平和大使として学んだこと』

栗ヶ沢中学校 1年 加藤 円来

私は平和大使として長崎に行き、思った事や感じたことがたくさんあります。

八月九日、この日は六十六年前、長崎に原爆が落とされた日です。たった一回の原爆がたくさんの人々のかけがえのない命を一瞬にして奪い、人々を悲しませ、そして苦しめました。毎日、平和に暮らしていた日々が突然、見たことのない景色になってしまったら、どんなに辛いのか、どんなに苦しいか考え直しました。

私は、これを通じて家族や友達の大切さにも気付かされました。長崎に行った時に被爆者の方の話を聞いたり、直視できないような生々しい写真を見ました。この時、これが実際に私の立場だったらと考えたら恐ろしくて仕方ありませんでした。私が毎日、楽しく過ごせるのは家族や友達のおかげであり、今こうして戦争もなく平和だからだと改めて実感することができました。しかし、私達が今、平和だということを決して当たり前と思うのではなく、これからも平和を維持していかなければならないと思いました。

核兵器や戦争の恐ろしさは、人から人へ語り継いでいくことが必要だということを被爆者の方に教えてもらいました。それが二度と戦争をしないことにつながるとの事です。私も人から人へ伝えることによって、皆が核兵器や戦争の恐ろしさを知り、平和というものをより大切に思うと思うので、良いことだと思いました。少しでも多くの人に平和の大切さを知ってもらうために、語り継いでいかなければならないと思いました。

今回、長崎派遣という事業に参加させて頂き、戦争の悲惨さや平和の尊さについて改めて学ぶ事ができたような気がします。戦争については授業でしか触れたこと

がなかったため、今まで知らなかったことが、この長崎派遣で知ることができ、今まで以上に戦争と向き合うことができたと思います。

この長崎での貴重な体験を今後の生活に活かしていきたいです。

## 『平和への一步』

六実中学校 3年 鈴木 理花子

平和大使としての貴重な四日間が終わりました。今私の心には、大きな傷を負った人の写真、全てが無くなった長崎の町の写真、原子爆弾の熱で跡形もなく消え去っていった人の話などが鮮明に思い出されます。教科書やドラマで、戦争の悲惨さや原子爆弾の威力、被爆後の人や町について、たくさん学んできたはずなのに、それは恐怖のほんの一部でしかありませんでした。現実はずっと残酷で、何の救いも無いものでした。長崎の地を訪れ、被爆された方の話に耳をすませ、その記憶に触れ、初めて本当の恐ろしさを肌で感じる事ができたのです。

原子爆弾は3,000～4,000度もの熱線と、秒速170メートルを超える爆風で、町も人も一瞬にして消し去りました。その日、その瞬間まで何も知らずに生活していた多くの人々の命を奪い、生き残ったとしても家族を失い、急性の放射線障害や重度の火傷に苦しみ、地獄より辛い生を強いられます。さらに、広範囲にまき散らされた放射線により、今もなお苦しみ続けている方が大勢いらっしゃる。「もう二度とこんなことは繰り返さないでほしい」被爆された方のその言葉が、私の心に強く重く響きました。戦争は人を人として見ず、物同然にたくさんの命を奪います。原子爆弾であれば殺人という感覚もなく、多くの人の命を簡単に消すことができます。一方では、それを成果として喜びの声をあげる者もいたでしょう。しかし、その裏側には必ず、悲しみと憎しみが生れます。憎しみは新たな憎しみを生み、負の連鎖となります。今なおその連鎖が断ちきれず、戦争を続けている国が世界には少なからずあることを、わたし達は忘れてはなりません。

平和祈念式典、11時2分、サイレン、平和の鐘が鳴る中、私たちは黙とうを捧

げました。原子爆弾が投下されるその瞬間まで、当時の人々も同じように蟬の声を聴き、夏の暑さを感じていたのでしょうか。黙とうの静けさの中、自分の心臓の鼓動が聞こえ、平和の中に生きていることを実感しました。平和祈念公園の下には、当時の長崎の町があるそうです。まさに多くの犠牲の上に現在の平和があることに、心が熱くなりました。式典前に降った大粒の雨は、水を求めて亡くなられた方々への天からの贈り物のように思えました。

長崎で私が学んだのは、戦争を二度と繰り返してはならないということです。戦争体験者は年々高齢化し、その恐怖を語り継ぐことができなくなります。私はその代弁者として、今回見たこと、聞いたこと、感じたことを周りの人に伝えていきたいです。両親に、友達に、これから出会うたくさんの人達に、戦争を単なる記録にしてしまうことの無いよう、語り続けていこうと思います。それが世界の平和に繋がるはずと信じながら。

## 『長崎平和大使として学んだこと』

小金南中学校 1年 坂本 実優

1945年8月9日、午前11時2分、長崎市松山町にアメリカ軍から一発の原子爆弾が投下されました。これは、広島（8月6日投下）につき、二度目の投下です。その後、日本は同年8月15日に終戦を迎えましたが、原爆投下から六十六年間、現在も苦しんでいる人々が大勢いることを、今回の長崎派遣で改めて知り、とても驚きました。

被爆体験講話で、被爆者の話を直接聞き、また、肉や骨が露出した悲惨な写真を見て、あまりのむごさに言葉が出ずショックを受けました。人間が人間にする行為ではないと思いました。

さらに私の心が痛んだことは、平和の泉にある石碑を読んだ時です。そこには、九歳の少女の手記が刻まれています。「のどが乾いてたまりませんでした。水にはあぶらのようなものが一面に浮いていました。どうしても水が欲しくてとうとう油の浮いたまま飲みました。」とありました。今、何も感じずに水が飲める私たちの生活は、普通のことではなく特別で幸せなことだと思いました。

3日目の平和祈念式典の前に、急に雨が降りました。その雨は、原爆で苦しみ亡くなった方々の涙のように思えて、胸が苦しくなりました。

被爆者の羽田麗子さんから、今を生きる私達に三つのお願いを託されました。

「一、命はたった一つしかない大切な命。決して粗末にしない。」

「二、差別や偏見を持たない。」

「三、物事は必ず話し合いで解決する。」

この三つは、私の通っている小金南中学校の学年目標と似ており、平和につな

がる大切なことなので、これからも改めて守っていこうと思いました。そして、平和大使長崎派遣で体験し学んだことを同世代の人々に伝え、世界恒久平和のヘルプをしていかななくてはならないと思いました。

最後に、この貴重な長崎平和大使長崎派遣を企画し引率してくださった市役所の方々、長崎青少年ピースフォーラムのボランティアの方々、そして両親に感謝しています。

今後も平和に関する取り組みに積極的に参加したいと思います。

## 『命や身近な物の大切さ』

古ヶ崎中学校 1年 谷口 茉奈美

私は今回、この「平和大使」という大変貴重な経験をさせていただき、さまざまなことを学ぶことができました。

私は、長崎から松戸へ帰る飛行機の中で特に、「平和」・「命」・「思い」を改めて慎重に考えました。

まずは、「平和」です。平和は私達の生活や命を守っているものだと感じました。

次に、「命」です。命は平和だからこそ守られるものであり、新たに生まれるものだと私は考えました。

そして、「思い」です。思いは人それぞれ違い、その思いを尊重し合うことができれば「平和」につながるのではないかと思います。

原爆資料館では、そのままの形で、生活用品などが展示されていたので、その持ち主がどんな思いで亡くなられ、被害に遭ったかがひしひしと伝わってきました。たくさんの写真が置いてあり、カラーで写っているものもありました。思わず目をそらしてしまうものや正面から見られないほどの悲惨なものもありました。私は、その時に、絶対このようなことを二度と起こしてはいけないと心の底から感じました。

平和祈念式典では、黙とうの時間がとても心に残っています。サイレンが鳴り響き、目をつぶるとその時の光景が目には浮かびました。そして、背筋がぞぞっとしました。黙とうの時間、その原爆が落とされた八月九日午前十一時二分に生きていた人々は、とても長く感じただろうなと思いました。後で考えてみると、平和祈念式典の前の雨は被爆者たちの涙のように思えました。

青少年ピースフォーラムでは、「平和なとき」と「平和ではないとき」という事を深く考え、平和なときを長く続けるための改善方法をチームで協力してじっくり考えて、発表し合いました。全国の中学校から来た人たちの意見や考えが大きな一枚の紙にびっしりと書き込まれました。その紙を見て、みんなの思いが詰まっているのだと確信しました。

長崎の街並みは、きれいでゴミなども落ちていませんでした。原爆が投下された街には思えませんでした。ここまで美しい街にもどせたのは、長崎の市民の皆さんの努力の結晶だと感じました。

今回、いろいろな国の人達が式典に参加していました。私は、少しでも多くの国の人達に、この悲惨な光景を見てもらいたいと思います。

十九名の平和大使のみんなと長崎で学べたことによって、一人で行くのと違い多くの人の意見や考え方も聞くことができました。この平和大使は平和の大切さだけでなく、仲間がいることの大切さも学ぶことができました。

最後になりましたが、この平和大使長崎派遣に関わってくださったすべての方に感謝します。そして、一生忘れない事を誓います。



『私が感じたこと』

牧野原中学校 2年 對馬 あい子

私は、この夏にめったに体験できないことをたくさん学ぶ事ができました。

長崎には六十六年前の八月九日、原爆が落とされました。それは私の想像した以上の残酷なものでした。

私が一番感じたことは、なぜこんなにも多くの人の命を奪い、苦しんでいる人がたくさんいるのに、核兵器を作り続けるのかと疑問に思ったことです。こんなにきれいな長崎から一瞬にして全てを消してしまった核兵器の恐ろしさが分かっていないのでしょうか。私はただ悲しいです。

そして私が一番心に残っていることは、長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典への参列です。十一時二分に黙とうは私にとってとても長く感じ、たくさんの事を考えさせられました。今、私ができることは、このような戦争があったこと、苦しんでいた人がたくさんいたことなどを多くの人々に伝えていくことだと気付かせてくれました。友達や家族など身近な人から伝えていき、これから生まれてくる子どもたちにも知ってもらいたいです。

最後に、こんな貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。このような事を経験させていただいたことは、絶対に忘れることはありません。そして、長崎でお世話になった方々、松戸市役所の方、一緒に四日間過ごしてくれた皆、本当にありがとうございました。皆さんのことは忘れません。

## 『平和大使長崎派遣』

河原塚中学校 2年 山田 真平

昭和二十年八月九日十一時二分、この時、長崎に原子爆弾が投下されました。

僕は長崎に行く前に、長崎のことを少し調べてみましたが、実際に行って見るとイメージとは違って原爆が落とされたというのに街には活気があふれていて、人間の力強さに驚きました。

原爆とは何か、そのことを知るために原爆資料館に行きました。資料館では、高温でぐにゃぐにゃになってしまったビンや、折れ曲がった表札等が展示されていて、ビンや表札の形が変わってしまうほどの温度が人間にも降りかかったということです。そのため、皮膚が焼けただれた姿の人、真っ黒になった死体の写真があり、どれも恐ろしく、つい目をそらしてしまい、あまりの残酷さに声も出ませんでした。

そして、なぜこんなことを人間同士がやったのか、また、なにも罪のない人達が犠牲になってしまったことが悲しくて悔しくてなりません。二度とこんなことは起きてはいけないと思いました。

青少年ピースフォーラムの「平和学習」も印象に残りました。意見交換では、全国から集まった人と班になり意見を交わし、色々な人の考え方があったことがわかりました。自分が正しいと思っていても、相手は正しくないと思っていることがありました。それが原因でケンカになり、そして戦争につながってしまうと考えました。

次に、班で「平和とは」という題で身近な平和について考えました。僕は「毎日楽しく過ごせていること」と言いましたが、別の班の人で「あたり前が幸せだ

という事を忘れない」と言った人がいました。とても心に響きました。なぜなら、そんな小さなことにも気付かなかったからです。

今、日本は平和が続いていますが、核兵器を保有している国もあり、戦争をしている国もまだあります。それではまだ平和とは言えません。世界中が少しでも平和に近付けるには、「平和の輪」を広げること、つまり、戦争の恐ろしさや、おろかさを伝えていくことです。もう一つは、世界が平和になることを願う事です。そうすれば、きっとこの世界が平和になると思います。

## 『平和大使長崎派遣』

新松戸南中学校 3年 新垣 竣太

僕は、今回平和大使長崎派遣に参加させていただいて戦争、被爆、平和について今まで以上に知ることができました。

最初、僕は、今回学んだことについてあまり知りませんでした。知っていても学校の授業やテレビで広島や長崎に原爆が落とされたというのを見たり聞いたりしたことがあるぐらいでした。

そして今回長崎市に行き、まず訪れた場所が立山防空壕でした。立山防空壕は空襲警報が発令されると、県知事ら要員が集まり、警備や救援、救護など応急対応の指揮、連絡手配に当たっていた場所であることを学ぶ事ができました。

次に訪れたのは、平和会館ホールです。ここでの被爆体験者の方の話が一番心に残りました。

まず1945年8月9日に長崎に原爆が落ちた話を聞きました。そしてその頃の家には、防空壕が必ずあったそうです。敵の飛行機一機には100個から120個の爆弾が詰められていたそうです。その話を聞いて今の日本では、そんなことは考えられないけれど、ものすごく怖かったです。

また、戦争の時は、いくらお金があっても食料を買えるわけではなかったそうです。そして、戦争のせいで学校に行けなくなり、神社やお寺で勉強をされていて、8月9日も松山の神社で勉強中に原爆が落とされ、次の日にその場所に行くとも無くなっていたそうです。そこで原爆を落とされ被害にあった人は3000度から4000度の熱線で焼かれてしまったそうです。僕は3000度から4000

度の熱線なんて想像できませんでした。その焼かれた人たちは、骨や灰も残ることは無かったそうで、その話を聞いて胸が痛くなりました。

原爆資料館での話で印象に残ったことがあります。

- 1 あなたたちの一人ひとりの命はひとつしかない。
- 2 ぜったいに差別をしない。
- 3 問題がおこったら話し合いで解決してほしい。

僕はこの話を聞いて、被爆者の方たちは、こういうことを常に思いながら生きているのだと思いました。

次に被爆地を歩く青少年ピースフォーラムに参加し、自分たちは平和公園に行きました。平和公園では、入り口に当時の写真がはってあり、それは、あまりにも残酷な物でずっとは見ていただけませんでした。

次に平和祈念式典があり、青少年ピースフォーラムに参加しました。その日の青少年ピースフォーラムでは、「平和について」という課題に取り組みました。平和とは何かと聞かれて僕は、平和とは、今やっていること全てだと思いました。

僕は、今回の長崎派遣に参加できて本当に良かったです。これからも平和という言葉を忘れず、平和を大切にしていきたいです。

## 『長崎で学んだこと』

金ヶ作中学校 2年 水谷 春来

私は、今まで戦争のことを調べたことがありませんでした。今回、長崎に行って、青少年ピースフォーラムや被爆体験講話を聞き、たくさん学ぶことができ、とても良い経験になりました。

羽田さんの被爆体験講話はとても生々しいお話でした。私はそのお話を聞き、悲しくなりました。なぜ、話し合いをしないで武力で解決させようとするのか、まだそれを続けている国があることに驚きました。羽田さんの平和への思いがひしひしと伝わってきました。

青少年ピースフォーラムで、平和に対しての意見交換を行い、けんかした時の解決方法を皆と考えたときは、私がけんかしたときは、自分から謝ったり、謝られたりだったけど、意見の中には他の人に仲立ちしてもらうとか、私にはない考え方があって、学ぶ事がたくさんありました。自分は自分なりの意見をちゃんと持ちながらも、色々な考え方のできる人になりたいです。

次に、被爆建造物を見て歩くフィールドワークを行いました。ボランティアをしてくれた高校生の人たちの話は解りやすく、知らないことがたくさんありました。町にはまだ昔の原爆の跡が残っていました。原爆落下中心地碑には、たくさんのお花、千羽鶴が供えてありました。でも、その周辺はきれいにされていて、とても五百メートルの上空から原爆が落とされたとは思えませんでした。そこには人々の協力があったと思います。

立山防空壕にも行きました。防空壕の中は涼しかったけど、太陽の光は入ってこないの、電気がないときは暗くて、大変だろうと思いました。今の私たちの

当たり前の生活が、すごくぜいたくなのだと感じ、節電に協力しなくてはならないと思いました。

長崎に行って、羽田さんの話や、フィールドワークを行い、平和の大切さを知りました。平和を意識しなくても平和な世の中であってほしいです。

## 『長崎派遣で学んだこと』

旭町中学校 3年 長谷川 結友

私は長崎に行って、たくさんのことを学ぶ事ができました。その中でも特に平和の大切さ、そして友情の大切さを学ぶ事ができたと思います。

まず、平和の大切さについてですが、私は長崎に行く前から戦争という行為がとても嫌いで、自分で調べていましたが、原爆については全く調べていませんでした。今回、長崎に行き長崎と広島に落とされた原爆について、深く学ぶ事ができました。

そして、原爆のことだけではなく、小さな幸せについても改めて考えさせられました。例えば、私達が普段、何事もなく生活ができているのは、母や友達、いろんな人のおかげです。そういう事を考えながら生活できたらいいと思います。

次に友情の大切さについてです。私達大使は少ししか会ったり、話すことができませんでしたでしたが、少しの時間でも、たくさんのことを大使の皆から教えてもらいました。この経験から私は、あまり人見知りをしなくなりました。なぜかという、少ししか話せなかった中でも、皆と仲良くなれたので、一つひとつの出会いを大切にしていけたらいいなと思ったからです。

最後に、私は皆と長崎に行けて良かったと思います。短い時間でしたが、たくさんの事を学ぶ事ができ、原爆というとても難しい問題や友達との問題、みんなで考えなくてはならないこと様々でしたが、考えることばかりではなく、皆との楽しい時間やたくさんの経験ができたので良かったです。



『あの一瞬をもう二度と』

小金北中学校 1年 板倉 日向子

「黙とう。」会場にサイレンが鳴り響く。六十六年前のこの一瞬、一発の原子爆弾で、七万四千人もの尊い命が奪われたのです。

私は、この長崎派遣に参加するまで、戦争や核兵器のことについて、よく知りませんでした。でも、今は違います。戦争、核兵器のひどさを知り、私は平和について二つの考えを持ちました。一つ目は、「平和は、あたりまえでないといけない。」です。二つ目は、「平和は、相手の気持ちを考える心がみんなにある時。」そう思いました。自分の国は原爆なんて落とされたくないだろうに、自分の国が負けたくないから・・・、自分の国が負けるのが怖いから、核兵器なんて、最悪な物をつくるのだと思います。相手の気持ちを考えたら、核兵器なんて、絶対につくらないだろうし、戦争なんて、絶対に起こるはずありません。いや、起こらないのです。

ここからは、私が特に心に残った、被爆者の羽田さんのお話について書きます。羽田さんは九歳の時に被爆しました。羽田さんが一年生の頃には、もう戦争は始まっていたそうです。まだ幼いのに、警戒警報など三つの合図を覚えさせられたそうです。どんなにお金があっても自由には買えず、本当に幼いのにおなかいっぱい食べられず、あげくの果てには、今は家畜のエサとなっている、まめかすしか食べることができないという、今では信じられないことが起きていたのです。そんな時に原爆が落とされて・・・。羽田さんのお母さんは一緒にいたので大丈夫だったそうです。しかし、お隣の家のお兄ちゃんがおらず、お隣のお姉ちゃんと探していると、焼かれて真っ黒な体、青ざめた顔、背中にはガラスが刺さっている人がいました。お兄ちゃんです。するとみんな、箸を持って来て刺さっているガラスをとったそう

です。血管に刺さっていたガラスを箸でとる。すると、血がふきだしてきたそうです。血の赤とガラスの輝きを、今でも憶えているそうです。

羽田さんは今でも目を閉じれば、血の赤、ガラスの輝きを思い出し、亡くなった知り合いを思い出し、一人苦しむのでしょうか。そう思えば、核兵器は必要ないものなのです。

八月九日、平和祈念式典は、合唱「もう二度と」から始まりました。「もう二度とつぐらないで、私たち被爆者を。」というメッセージは、日本中、いや、世界中の人たちの心に響いたと思います。

あの一瞬を、もう二度と・・・。

## 『平和とは何か』

聖徳大学附属女子中学校 2年 張 敏

私はこの夏、長崎へ行き、平和への考え方が変わりました。

一つ目は、平和の大切さです。青少年ピースフォーラムでの羽田さんの言葉は、私の心に重く響きました。「人の命は尊く、みな同じ重さがあり、大切にしなければならないものである」どんな本で読むよりも、重みのある言葉でした。しかし、戦争中の昔は、その基本的な事ですら、守られていませんでした。だからこそ日本に原爆が落とされたのです。もう二度とこのような事が起こらないために、羽田さんは自分の被爆体験を人々に語っているそうです。思い出したくないことを思い出し、人にそれを話す。とても勇気のいることだと思います。原爆で亡くなった命を無駄にしないためにも平和を大切にしていきたいと思いました。

二つ目は、平和とは何か、ということです。今まで私は、戦争の無いことだけを平和だと思っていました。しかし、青少年ピースフォーラムでの平和に対する各班の意見発表の時、ある班が、普通に生活できることも平和のうちだ、と発表しました。確かにその通りです。戦争がなくても、普通に生活できないならば、それは平和とは呼べません。つまり、平和とは、戦争がないのはもちろんのこと、普通に生活できることを指すのです。青少年ピースフォーラムでは、平和の大切さと、戦争がない事だけが平和ではないことを学びました。

三泊四日という短い時間の中で、私は、実際に長崎へ行った人にしか分からないことをたくさん学ぶことができました。これからは羽田さんのように、平和の大切さや、戦争の恐ろしさをたくさんの人に伝えていきたいです。

最後に、この貴重な体験をさせていただいた総務課のみなさん、一緒に四日間過ごした大使のみなさん、ありがとうございました。

## 『平和への祈り』

専修大学松戸中学校 2年 平野 瑞帆

長崎に原爆が落とされて六十六年目の今年の夏、私は松戸市の平和大使として長崎に行き、命の大切さや平和の尊さについて改めて学びました。

私が長崎に着いて初めに思ったことは「本当にこの街に原爆が落とされたのだろうか」ということでした。長崎は、私が思っていた「原爆を落とされた街」という雰囲気は全くなく、「笑顔があふれる、とても美しい街」でした。そして、六十六年前にそんな美しい街並や人々の笑顔が一瞬にして奪われたと思うと、もう二度と戦争や原爆による悲しみを繰り返してはいけないと思いました。

三日目には平和祈念式典のあと、「青少年ピースフォーラム」に参加し、グループごとにテーマを考え、話し合いました。まず、「平和な時」について考えた時、「平和」についてきちんと考えた事が無かった私には何も浮かびませんでした。けれど、同じグループだった女の子が「たくさん笑って、好きな事ができている時」と発言しているのを見て、そんなに当たり前で、でも絶対に当たり前と思っていけない事が思いつかない自分がとても恥ずかしくなりました。私は青少年ピースフォーラムに参加したことで日常生活の中にもたくさんの「平和」があるのだと改めて思いました。

私は長崎に行くまで、戦争や原爆についてほとんど知らない私に平和大使が務まるのか、とても不安でしたが長崎から帰ってからは、今回学んだ事、感じた事を家族や友人、周りの人に伝え、少しずつでも平和の輪を広げていきたいと思うようになりました。そして、一秒でも早く核兵器のない、「たくさん笑い、好きな事ができる」世界になることを心から祈っています。

最後に、私にこのような貴重な体験をさせていただき、ありがとうございます。

# 平和大使長崎派遣を終えて

## (随行職員)



平和大使長崎派遣は、4年目を迎え今回は19人の平和大使を長崎に派遣することとなりました。

今年は、3月11日に発生した東日本大震災の未曾有の被害やそれによる原子力発電所からの放射能漏れの状況を映像などで見たことをきっかけに参加を申し込んだ生徒もあり、例年とは異なる環境での平和大使長崎派遣となりました。

まず、7月10日に開催された結団式と第1回オリエンテーションで初めて顔を合せた平和大使が、少し緊張気味に話をする姿がとても印象的でした。

その後、第2回、第3回とオリエンテーションの数を重ねるごとに、それぞれの平和大使の個性が見え隠れしてきました。次に平和大使と顔を会わせるのは、長崎派遣当日です。

そして、8月7日いよいよ平和大使長崎派遣の日を向かえ、19名の平和大使は不安と期待を併せ持った表情で集合しました。

松戸駅からJR、モノレールそして飛行機を乗り継いで長崎へ到着、この日は宿泊先周辺を散策し、夕食後から千羽鶴の作成とその鶴に託す思いを短冊に書いて、作業は終了です。鶴に託すことばは、平和大使が話し合い「平和の祈りをこの鶴に」としました。この千羽鶴は、2日目に平和大使の手によって、長崎市に献呈しました。

2日目は、長崎歴史博物館と立山防空壕を見学し、長崎の歴史などについて学びました。午後からは、いよいよ青少年ピースフォーラムへの参加です。

青少年ピースフォーラムでは、被爆者体験講話をお聴きしました。実際に原爆を体験された羽田麗子さんのお話に、平和大使それぞれが深い悲しみや衝撃を受けておりました。続いてフィールドワークが行われ、地元の高校生が中心となり構成されたピースボランティアの案内で原爆資料館から平和公園まで原爆落下中心地碑、浦上天主堂遺壁や平和公園などを見学しました。羽田麗子さんのお話を聴き、実際の被爆建造物や原爆資料館の熱線で溶けた瓶に手で触れるなど、平和大使は被爆の実相や被爆の悲惨さを直に感じ取っていました。

3日目の8月9日は、被爆66周年長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典が開催されます。青少年ピースフォーラムの参加者は、平和祈念式典に参列させていただけることになっています。平和式典では、献水、献花、平和宣言や被爆者からの平和の誓いなどが執り行なわれ、原爆が投下された午前11時2分にはサイレンと長崎の鐘が鳴り響き1分間の黙とうをささげます。黙とうをしている時に、「体がふるえた」「涙があふれ出た」「体が熱くなった」など、平和大使から話を聴き平和式典に参列できたことが一人ひとりの心に深く刻みこまれたと思います。

午後からは、平和学習として各県からの参加者を無作為に10人程度の7班にグループ分けをして、「幸せと思うとき」と「そうでないとき」をテーマにグループ討議が行われました。そして、平和を考えるきっかけとして「そうでないとき」はどんなときか、

また、解決策は何かについて各グループで話し合い、討議結果を発表しました。

各グループからは、「当たり前」の生活が無いとき」「今の日本」「友だちとケンカをしたとき」「ケンカ」「人ともめている時」「差別」「ケンカをしたときの対策」とケンカを取り上げたグループが多くあり、解決策としては、どのグループも話し合いを挙げていました。松戸市の平和大使も、それぞれのグループの中で率先して発言したり、自ら発表者となるなど積極的に取り組んでおり、とても頼もしく思いました。

青少年ピースフォーラムは、ピースボランティアが、フィールドワークにおける被爆建造物の説明や平和学習のリーダーを務めており、平和学習の導入部分ではゲームを取り入れるなど参加者同士の気持ちが打ち解け、充実した話し合いができるようなプログラムやグループ討議の際、なかなか打ち解けない参加者へも気を配り、参加者全員が関わられるような対応に努めていたことは、素晴らしいと感じました。

今回の平和大使長崎派遣をとおして、19人の平和大使が式典や資料館では、真摯な態度で行動していることに感銘を受けました。また、青少年ピースフォーラム以外では、はしゃぎ過ぎる場面があるなど、少したがが外れる部分も見受けられましたが、その分平和大使同士の仲間意識が高まったことも事実であり、結果的にはよかったと思います。

松戸に帰ったその日に行った、松戸市長への報告会でも平和大使一人ひとりが、長崎での4日間に見て、聴いて、体験したことをきちんと整理して、平和の大切さや原爆の恐ろしさを自分の言葉として報告しており、報告会に参加されていた皆さんにも思いが伝わったと確信しています。

平和大使からの報告を聴き、平和大使それぞれが、この4日間で多くのことを受け止め、学び、理解していたことがよくわかりました。平和大使とともに、長崎に行き祈念式典や青少年ピースフォーラムに参加できたことで、感動が平和大使の人数分である19倍多くいただいた気がします。さらに、私自身も、平和式典に参列をさせていただき、黙とうの際に、被爆講話で聴いた場面や原爆資料館の映像などさまざまな事や思いが体中をめぐる、貴重な体験をさせていただきました。

平和大使長崎派遣は、今回で4回目となり1回目に10人、2回目15人、3回目22人、そして今回19人の中学生が平和大使を経験しました。今後、平和大使経験者が、平和大使として、学び、考え、習得した経験を活かせる場ができればと強く思いました。

平成23年8月9日午前11時2分、サイレンが鳴り響く中、平和祈念式典にて黙祷をしました。瞼を閉じると、目の前は赤く染まり、暑い日差しを浴びて、まるで原爆が投下された現場にいるかのような錯覚に陥りました。静寂の中、遠くで蝉の音が響き、過去の凄惨なできごとから、66年もの時を経た「平和」な今を告げるかのようなものでした。

私は、今年初めて松戸市の「平和大使」に随行しました。長崎の原爆については、社会の授業で扱う歴史のひとつでしか知りえませんでした。66年もの歳月を経てもなお、後遺症に苦しむ方々や被爆体験を後世に語る使命をもって語り部として活躍している方々がいることを知り、改めて長崎の被爆都市としての歩みを垣間見た気がします。教科書や資料集など文章や写真だけでなく、その場所に行き、直接話を聴いたり、被害にあった遺構などを直接見ることで、原爆の恐ろしさや平和の尊さをより一層感じることができました。今回、平和学習をする中で「平和の原点は人間の痛みがわかる心をもつこと」(The basis of peace is for people to understand the pain of others)という一文がありました。相手を思いやる心は古来より日本人が大切にしていたものです。今年、3月11日の東日本大震災による被害、そしてその後の福島原発の被曝事故など多くの方々の悲しみが日本を包んでいます。今こそ「平和」について改めて考える機会なのではないかと感じました。

松戸市の長崎平和大使派遣事業は、中学生に様々な直接体験をさせることで、大使一人ひとりが、「長崎の歴史」や「原爆」、「平和」について、深く考え、そしてそれを一人でも多くの人に伝えていくことで、学校生活に還元され、やがては松戸市民全体の平和意識向上へとつながっていく大きな構想のもと実施しているものです。今回の平和大使は19名の参加でしたが、各学校から、長崎の原爆についての歴史に興味関心の高い生徒や平和事業への意識の高い生徒が集い、3泊4日という行程を過ごしました。初めこそ、緊張して固かった表情も日が経つにつれ、だんだんと打ち解けていきました。1日目の夜には、用意した千羽鶴を束ね「平和の祈りをこの鶴に」という言葉をみんなで考えて鶴に添えました。2日目のピースフォーラムでは、被爆体験者の羽田さんからお話をうかがいました。9歳で被爆した羽田さんのお話はまっすぐ私たちの心に響き、多くの大使がメモを片手に固唾を吞んで聴き入っていました。「一人ひとりの命はかけがえのないもの」・「差別をしない」・「問題があったら時間がかかっても必ず話し合いで解決する」という3点は、中学生にとっても大切なことであると感じました。3日目の祈念式典では、大使全員が制服に着替え、凜とした表情で式に参列しました。式典前の雨は多くの被爆者の悲しみの涙で、その後晴れ渡った青空は、これからの長崎、日本の未来を示しているのではないと思うほど澄み渡っていました。最終日、多くの大使が「もう少し長崎に滞在したい」と感想をこぼしていました。それだけ充実した日々であったのだと思います。帰庁後の市長への報告会では、一人ひとりが立派に長崎で学んだことを自分の言葉で伝えていました。それぞれの言葉を聞き、本当に多くのことを学び、成



長した4日間であったのだと感じました。特に「本物を見たからこそ、伝えられるものがある。今後、自分自身も平和の語り部として多くの人に伝えたい。」と言った大使の言葉は忘れられません。

最後に、ご協力をいただきました保護者の方々をはじめ、多くの関係者の皆様には心より御礼を申し上げます。ありがとうございました。

今年の平和大使長崎派遣で四回目を迎え、私自身は去年に続き二回目の随行を任されることとなりました。

公開抽選により市内中学校から19名が平和大使として選ばれ、7月10日の結団式では、平和大使と初めての顔合わせです。一人ひとり、自己紹介を行いました。非常に緊張していたように見受けられました。

緊張もあったと思いますが、初めは大使同士の会話も少なく、長崎派遣に行く前までに仲良くなり、みんなで協力し合っていけるのか不安でありましたが、オリエンテーションを重ねていくことで、一人ひとりが意見を発言し、それをリーダーと副リーダーが中心となり19名が徐々にまとまっていく姿を見て不安はなくなり、頼もしくも見えてきました。

いよいよ、長崎へ出発する8月7日となり、全員が元気な姿で松戸駅に集まり、家族や学校の先生に見守られ長崎へ向け出発しました。その日の夜は宿泊先のホテルで、先日より作っていた大使の折り鶴と市民の方々より折って頂いた折り鶴を使い、一つの千羽鶴を完成させ、そして、この鶴にどんな思いを込めて献呈するか意見を話し合った結果、「平和の祈りをこの鶴に」と決定しました。

二日目、大使が参加する青少年ピースフォーラムが午後からであったので、午前中はオリエンテーションで話し合っていた自主学習に向かい、立山防空壕と長崎歴史文化博物館を見学し、青少年ピースフォーラムへ参加する途中に原爆資料館へ寄り、昨日完成させた千羽鶴と松戸市民より頂いた千羽鶴を「平和の祈りをこの鶴に」の思いを込め、献呈しました。

この日は青少年ピースフォーラムの開会行事、羽田さんの被爆体験講話、フィールドワークに参加し、被爆体験講話やフィールドワークでボランティアの方の説明を真剣な眼差しで聞いている姿を見て、実際にあった原爆の恐ろしさ、悲惨さを大使たちは学ぶことができたと思います。

三日目は平和祈念式典に参列し、原爆が落とされた11時2分になりサイレンと鐘が響く中、黙とうを捧げました。中には昨日聞いた羽田さんのお話が目の前に浮かんできた様子で涙ぐんでいる大使もあり、それぞれがいろんな思いを感じ式典に参加することができました。

青少年ピースフォーラムの平和学習では全国から集まった中学生と共に身近な平和についてグループごとで考え、「今までは当たり前だと思っていたことが、平和なんだと気付いた」との声があり、この青少年ピースフォーラムで学べたことは、若い世代の中学生にとって非常に意義のあることだと思いました。

翌日、長崎市より市役所に帰庁し市長に対して報告会を行いました。その報告会では、一人ひとりが見て、聞いて、感じた事を大使たちは自信を持って堂々と報告している姿が今でも目に焼き付いております。

この夏に経験した貴重な体験をご家族、ご友人など、たくさんの人達に伝えていってほしいと願っております。そして、19名で協力し千羽鶴を完成させ長崎派遣を無事に終えたこと、長崎派遣を通してたくさんの人に出会えたこと、多くの熱い思いを感じられたことを忘れないでください。

今回、19名の大使の皆さんと出会え、無事に終えられたことを、心よりうれしく思っており、今後の皆さんの輝かしいご活躍を期待しております。

最後に、青少年ピースフォーラムでのガイド、ボランティアをして頂いた方々、この事業にご協力して頂きました保護者の皆様、さらに関係者の皆様に、この場をお借りいたしまして、心よりお礼を申し上げます。

## 長崎平和宣言

今年3月、東日本大震災に続く東京電力福島第一原子力発電所の事故に、私たちは愕然としました。爆発によりむきだしになった原子炉。周辺の町に住民の姿はありません。放射線を逃れて避難した人々が、いつになったら帰ることができるのかもわかりません。

「ノーモア・ヒバクシャ」を訴えてきた被爆国の私たちが、どうして再び放射線の恐怖に脅えることになってしまったのでしょうか。

自然への畏れを忘れていなかったか、人間の制御力を過信していなかったか、未来への責任から目をそらしていなかったか……、私たちはこれからどんな社会をつくろうとしているのか、根底から議論をし、選択をする時がきています。

たとえ長期間を要するとしても、より安全なエネルギーを基盤にする社会への転換を図るために、原子力にかわる再生可能エネルギーの開発を進める必要があります。

福島原発事故が起きるまで、多くの人たちが原子力発電所の安全神話をいつのまにか信じていました。

世界に2万発以上ある核兵器はどうでしょうか。

核兵器の抑止力により世界は安全だと信じていないでしょうか。核兵器が使われることはないと思込んでいないでしょうか。1か所の原発の事故による放射線が社会にこれほど大きな混乱をひき起こしている今、核兵器で人びとを攻撃することが、いかに非人道的なことか、私たちははっきりと理解できるはずです。

世界の皆さん、考えてみてください。私たちが暮らす都市の上空でヒロシマ・ナガサキの数百倍も強大になった核兵器が炸裂する恐ろしさを。

人もモノも溶かしてしまうほどの強烈な熱線。建物をも吹き飛ばし押しつぶす凄まじい爆風。廃墟には数え切れないほどの黒焦げの死体が散乱するでしょう。生死のさかいでさまよう人々。傷を負った人々。生存者がいたとしても、強い放射能のために助けに行くこともできません。放射性物質は風に乗り、遠くへ運ばれ、地球は広く汚染されます。そして数十年にもわたり後障害に苦しむ人々を生むことになります。

そんな苦しみを未来の人たちに経験させることは絶対にできません。核兵器はいらない。核兵器を人類が保有する理由はなにもありません。

一昨年４月、アメリカのオバマ大統領は、チェコのプラハにおいて「核兵器のない世界」を目指すという演説をおこない、最強の核保有国が示した明確な目標に世界の期待は高まりました。アメリカとロシアの核兵器削減の条約成立など一定の成果はありましたが、その後大きな進展は見られず、新たな模擬核実験を実施するなど逆行する動きさえ見られます。

オバマ大統領、被爆地を、そして世界の人々を失望させることなく、「核兵器のない世界」の実現に向けたリーダーシップを発揮してください。

アメリカ、ロシア、イギリス、フランス、中国など核保有国をはじめとする国際社会は、今こそ核兵器の全廃を目指す「核兵器禁止条約（NWC）」の締結に向けた努力を始める時です。日本政府には被爆国の政府として、こうした動きを強く推進していくことを求めます。

日本政府に憲法の不戦と平和の理念に基づく行動をとるよう繰り返し訴えます。「非核三原則」の法制化と、日本と韓国、北朝鮮を非核化する「北東アジア非核兵器地帯」の創設に取り組んでください。また、高齢化する被爆者の実態に即した援護の充実をはかってください。

長崎市は今年、国連や日本政府、広島市と連携して、ジュネーブの国連欧州本部に被爆の惨状を伝える資料を展示します。私たちは原子爆弾の破壊の凄まじさ、むごさを世界のたくさんの人々に知ってほしいと願っています。

「核兵器のない世界」を求める皆さん、あなたの街でも長崎市と協力して小さな原爆展を開催してください。世界の街角で被爆の写真パネルを展示してください。被爆地とともに手を取り合い、人間が人間らしく生きるために平和の輪をつなげていきましょう。

１９４５年８月９日午前１１時２分、原子爆弾により長崎の街は壊滅しました。その廃墟から、私たちは平和都市として復興を遂げました。福島ของ皆さん、希望を失わないでください。東日本の被災地の皆さん、世界が皆さんを応援しています。一日も早い被災地の復興と原発事故の収束を心から願っています。

原子爆弾により犠牲になられた方々と、東日本大震災により亡くなられた方々に哀悼の意を表し、今後とも広島市と協力し、世界に向けて核兵器廃絶を訴え続けていくことをここに宣言します。

2011年(平成23年)8月9日  
長崎市長 田上 富久

以下、長崎平和宣言（用語解説）から抜粋

### ◆再生可能エネルギー

---

太陽光や熱、風力、水力、地熱などさまざまな自然現象を利用する枯渇しないエネルギーのことです。これに対して、石油や石炭など化石燃料は一度使ってしまうと減ってしまうので、「枯渇性エネルギー」とも呼ばれています。

再生可能エネルギーは、温室効果ガスである二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）を出さず、将来も持続的な利用が可能であるため化石燃料に代わるエネルギーとして期待されています。

### ◆世界に2万発以上ある核兵器

---

長崎に落とされた原爆は、通常火薬の約2万1,000トンの量に相当する威力があったと言われています。一方で現代の核兵器は、その数倍から数百倍の威力を持つものまであります。核保有国が持っている核弾頭は、使用できる状態にあるもののほか、ミサイルから取り外されているものの、再び使用できるよう保管されているものも含めると、アメリカ 9,600 発、ロシア 12,000 発、イギリス 225 発、フランス 300 発、中国 240 発となっており、インド、パキスタン、イスラエル、北朝鮮などの推計もあわせると、世界中に2万発以上の核弾頭があると言われています。

### ◆核兵器の抑止力

---

相手国が攻撃してきた場合、核兵器で反撃するという姿勢を見せることによって相手国の攻撃を思いとどまらせようとするのを、核兵器の抑止力といいます。しかし、抑止力に固執すると、お互いに相手国より強力な核兵器を保有したり開発しようとするために、逆に核兵器による攻撃の危険性が高まる可能性があります。

### ◆後障害

---

原爆の放射線障害は急性障害と後障害に分けられます。急性障害は大量の放射線を浴びたときに出る症状で、嘔吐、下痢、発熱、皮下出血などを発症したのちに多くの方が死亡しました。

後障害は、被爆して数年から数十年してから現れる障害で、ガンや白血病、白内障などがあります。

### ◆アメリカとロシアの核兵器削減の条約

---

アメリカとロシアの核兵器削減の条約 2009年（平成21年）12月に失効した、「第1次戦略兵器削減条約（START1）」の後継条約として、2010年（平成22年）4月8日、チェコのプラハにおいて、新しい「戦略兵器削減条約」に調印し、2011年

(平成 23 年)2 月 5 日にドイツのミュンヘンにおける批准書交換により発効しました。

この条約は、両国は発効後 7 年以内に、それぞれ配備済み戦略核弾頭総数を 1,550 に、戦略核運搬手段総数を 800(内配備済は 700)に削減するよう義務付けています。

また、同条約は射程の長い戦略核に限られており、射程の短い戦術核の削減につながるかはわからず、今後の課題は少なくありません。

それでも、2 大核保有国のアメリカとロシアがそろって世界に核削減の意思を示したという点では、歴史的な意義があります。

## ◆模擬核実験

---

模擬核実験とは、臨界前核実験や新型の核性能実験などの核爆発を伴わない実験のことで、保有核兵器の安全性と有効性を調べる目的で実施されます。

臨界前核実験とは、高性能火薬を爆発させ、原爆の爆発前と同じように衝撃波でプルトニウムを圧縮し、臨界に達する前までの状態を実験し、得られたデータをコンピューターなどで分析して、プルトニウムの劣化の度合いなど核兵器の性能を検証するものです。

新型の核性能実験とは、世界で最も強いエックス線を発生させる装置を用いて、核兵器が爆発した時のような超高温、超高压の状態をつくり、プルトニウムの反応を調べるもので、アメリカでは昨年 11 月と今年 3 月の 2 度実験していたことが判明しました。核爆発を伴わない点では臨界前核実験と同じですが、核実験場を必要とせず、火薬を使わないという特徴があります。

なお、アメリカは、これらの実験は核爆発を起こさないので、包括的核実験禁止条約(CTBT)の対象となっていないとして、長崎市などの再三の抗議にもかかわらず、1997 年 7 月以降現在までに発表されたものだけでも 28 回の実験を繰り返しています。

## ◆核兵器禁止条約(NWC)

---

核兵器の開発、実験、製造、配備、使用をすべて禁止して、また、現在、保有している核兵器を解体して使えなくする条約です。

核兵器禁止条約は、国際司法裁判所が 1996 年(平成 8 年)に「核兵器の使用・威嚇は一般的に国際法に違反する」とした勧告的意見が始まりとなりました。

1997 年(平成 9 年)に国際反核法律家協会など 3 団体が、「核兵器は違法」とする考えにもとづいて、モデル核兵器禁止条約の案を発表し、同じ年にコスタリカ政府が国連に提出しました。

2007 年(平成 19 年)には、コスタリカとマレーシア両政府が、核不拡散条約(NPT)再検討会議準備委員会、国連総会に改訂版の禁止条約案を提出、2008 年(平成 20 年)には潘基文(パン・ギムン)国連事務総長も、核軍縮に関する 5 項目の提言を発表して、禁止条約の検討を加盟各国に求めています。

## ◆非核三原則

---

非核三原則とは、核兵器を「持たない」「つぐらない」「持ち込ませない」という被爆国である日本政府の 3 つの原則のことです。

1967 年（昭和 42 年）12 月、当時の佐藤栄作首相が国会（衆議院の予算委員会）で表明しました。1971 年（昭和 46 年）11 月の衆議院で沖縄返還に関連して、初めて国の方針（国是）として決議（国会の意志を決めること）が行われました。

## ◆北東アジア非核兵器地帯

---

北東アジア非核兵器地帯とは、日本と韓国と北朝鮮の 3 か国を「非核兵器地帯」にしようとするものです。条約として成立するためには、3 か国に核兵器が存在せず、核保有国（中国、ロシア、アメリカ）は、3 か国を核兵器で攻撃をしないと約束することが必要になります。

日本では、1971 年（昭和 46 年）に「非核三原則」の国会決議が行なわれ、また、韓国と北朝鮮による、「朝鮮半島非核化共同宣言」が、1992 年（平成 4 年）に発効するなど、それぞれの国が非核化を表明しました。

しかし、2006 年（平成 18 年）10 月、北朝鮮が核実験を実施し、北東アジアの平和と安全が大きく脅かされました。さらに、2009 年（平成 21 年）5 月 25 日、北朝鮮は、2 回目の核実験を実施し、「北東アジア非核兵器地帯」の前提となる朝鮮半島の非核化の実現は、さらに困難な状況になりました。

今後、国際社会が結束して、北朝鮮の核を放棄させることが、「北東アジア非核兵器地帯」の実現には必要となります。





～ 歴代平和大使名簿 ～

年度	No.	氏名	(学校名)
平成二十年度(二〇〇八年)	1	熊川 実旺	(第四中 2年)
	2	別宮 賢治	(第五中 2年)
	3	渡邊 ちさと	(六実中 3年)
	4	片野 結依	(小金南中 1年)
	5	清水 のどか	(古ヶ崎中 1年)
	6	藤井 彩乃	(新松戸南中 2年)
	7	清水 健人	(金ヶ作中 1年)
	8	神部 莉奈	(新松戸北中 2年)
	9	山本 拓実	(旭町中 3年)
	10	黒木 若葉	(聖徳大学附属中 1年)
平成二十一年度(二〇〇九年)	1	川本 景介	(第一中 1年)
	2	鈴木 亜加里	(第二中 1年)
	3	小幡 祐太	(第三中 1年)
	4	山田 政明	(第四中 1年)
	5	清水 彬奈	(第五中 1年)
	6	久佐野 美奈子	(第六中 1年)
	7	増野 友梨奈	(小金中 2年)
	8	井山 陽菜	(常盤平中 2年)
	9	小林 美幸	(栗ヶ沢中 1年)
	10	熊川 大揮	(六実中 1年)
	11	高島 里夏	(牧野原中 3年)
	12	西 志穂	(河原塚中 3年)
	13	工藤 颯人	(根木内中 1年)
	14	四家 明宜	(金ヶ作中 1年)
	15	児島 一華	(和名ヶ谷中 1年)

年度	No.	氏名	(学校名)
平成二十二年度(二〇一〇年)	1	櫻井 和奏	(第一中 2年)
	2	吉田 彩乃	(第二中 1年)
	3	三橋 若奈	(第三中 1年)
	4	笹本 幸輝	(第四中 2年)
	5	比嘉 祐哉	(第五中 2年)
	6	後藤 奈穂美	(第六中 1年)
	7	神部 ちひろ	(小金中 2年)
	8	田中 萌加	(常盤平中 1年)
	9	高梨 望	(栗ヶ沢中 2年)
	10	岸田 穰士	(六実中 2年)
	11	大山 祭	(小金南中 1年)
	12	渡邊 誠嗣	(古ヶ崎中 2年)
	13	梶浦 美樹	(牧野原中 2年)
	14	斉藤 温人	(根木内中 1年)
	15	富永 由也	(河原塚中 1年)
	16	石井 拓海	(新松戸南中 2年)
	17	中川 剛志	(金ヶ作中 1年)
	18	向田 美紀子	(和名ヶ谷中 3年)
	19	山本 ありさ	(旭町中 2年)
	20	新倉 花菜	(小金北中 1年)
	21	田村 陽香	(聖徳大学附属女子中 2年)
	22	染谷 日向子	(専修大学松戸中 1年)



平成23年度  
平和大使長崎派遣事業報告書  
～平和の祈りをこの鶴に～

松戸市  
総務企画本部総務課

平成23年11月発行